またまた引き続き「視覚支援」をテーマにしたお話です。最終的には障がいがあろうが無かろうが、目で見て解る様に伝える事は有効ですよって事ですね。
コミュニケーションとは「双方向のもの」これですよ。これ。命令カードや命令ボードじゃ、ダメよ～ダメダメって事ですね。
久田

第73回『わかるように伝えていますか』

香川大学　坂井　聡

コミュニケーションするために

視覚的な支援が主として使われるのは、構造化した場面においてであることが多いと思われます。手順表やスケジュールなどわかりやすく伝えるために視覚的な支援をしている場面が多いと考えられるからです。これは、教師や指導員、支援者が、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人にわかりやすく伝えるために行っている必要な支援と考えられます。そして、重要なことは、これは受容性のコミュニケーションと考えることができるという点です。
しかし、ここで忘れてはならないことがあります。それは、コミュニケーションは双方向のものだということです。すなわち、自閉症スペクトラムなど発達障害がある人からの発信である表出性のコミュニケーションについても考えなければならないということなのです。

そこで、今回は受容性のコミュニケーションに用いられる視覚的支援を考えてみたいと思います。

先にも述べましたが、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人に対して、視覚的支援を活用して理解できるように伝える工夫として、構造化を挙げることができます。構造化は自閉症スペクトラムなど発達障害のある人に対する視覚的支援の優位を活用したコミュニケーション方法と考えることができます。音声で発せられた情報だけではうまく伝えることができないために、視覚的な情報を使って伝える方法だということです。理解できない場面で、理解できない、処理を苦手とする音声で伝えられても混乱するだけです。学校などの教育の場に学びに来た子どもたちが、混乱して日常を過ごすことがあってはならないと思いませんか。そのために、視覚的支援を活用して、混乱せずに、見通しをもって学ぶことができるようにするための必要な支援なのです。

わかるように伝えるための方法として構造化があり、構造化するために視覚的な支援が有効だということです。
構造化以外の方法で分かりやすく伝えるというのはとても困難なことだと思います。もし、他の方法でうまく伝えることができるのであれば、その方法を紹介してもらいたいと思います。まだ私は、他の有効な方法に出会ったことがないからです。

坂井聡先生の紹介

（プロフィール）
香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭、香川大学教育学部障害児教育コース准教授を経て、現在は国立大学法人香川大学教育学部教授。
1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。その軽快なしゃべりくち、人柄からか、大阪では絶大なる人気を誇る。
（著書）
暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など